

平成17年度 試験研究(事前)評価整理表

整理表1

試験研究機関名 養鶏試験場

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント	評価結果の反映状況(予算要求・手法・その他)
	施策目標	研究課題分類				始期	終期				
1	豊かで魅力ある農業の振興	本県に適した高品質で優良な品種の開発と家畜の改良	県産銘柄鶏の改良と開発	損耗軽減・飼料コストの低減等のための劣性形質の除去や、産卵率・飼料効率等の能力向上を図る。	当場作出の高品質実用鶏の種鶏性能を調査して改良を行うとともに、これらの次世代鶏を作出する。また、種鶏を交配し作出する実用鶏について特性・能力を把握し、改良へ活用する。	18	22	A	研究ニーズが高く、波及効果も大きいと考えられるため、優先的に実施すべきである。	養鶏をとりまく環境への厳しい基準に合致する経営を望みます。	予算要求額はシーリングにより減少するが、機関として重点的に取り組むことになっているので、計画通り実施する。
2	豊かで魅力ある農業の振興	安全な農林水産物生産技術の開発	安全で特色ある地鶏肉等の生産技術の確立	消費者から「畜産物の安全・健康」が求められることから、生産者段階での地鶏肉・特種卵の安全性・衛生管理を主にした生産技術を確立する。	1. 地鶏肉等における安全性を確保した生産技術を確立する。 2. 鶏の健康・ストレス低減をねらいとした地鶏肉等の生産技術を確立する。	18	22	C	新たな技術の具体的内容やコスト面での影響等について検討を加えらるとともに、年次計画における実施内容を見直す必要がある。	養鶏をとりまく環境への厳しい基準に合致する経営を望みます。	予算要求額はシーリングにより減少するが、新たな技術のコスト面の影響等について検討し実施する。
3	地域資源を生かした産業の振興	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	生産コストと付加価値を考慮した地鶏肉の生産流通方式の確立	1「地鶏飼養マニュアル」等を活用し、地鶏の生産性を改善する。 2地鶏肉の肉質成分分析成績等を活用し、地鶏肉の品質の斉一性をもたせる。	1地鶏の生産・流通に係る実態調査 2付加価値を考慮した地鶏肉の生産・流通方式の検討 3地鶏肉の肉質評価法の確立	18	22	C	実態調査により得られた生産・流通過程による問題点等を、関係機関との連携により十分な分析を行ったうえで、品質面だけではなく、コスト面からの問題等を解決する技術の確立も必要である。	研究の概要では生産技術の側面があがっているが、地鶏の流通・加工面の研究を経営研究者等と連携して行う必要があり、その点でも研究計画の見直しが必要と考える。なお比内鶏等との比較研究も望む。	予算要求額はシーリングにより減少するが、他の地鶏との比較研究を取り入れ、コスト面からの問題解決を関係機関と連携を図りながら実施する。